

序

今年度も私たち健康安全研究センター研究成果をとりまとめ、報告させていただきます。ご指導ご協力頂きました皆様には大変感謝申し上げます。

近年、中国製輸入餃子への農薬混入、大学生の薬物乱用、様々な集団感染・食中毒等、健康危機はますます多様化かつ複雑化しています。また、新興再興感染症や新たな環境リスクへ懸念も一層強まっています。こうした危機に対して、直近の事例に対処するだけでなく、その本質的原因を政策的に解決するためには、科学的根拠と疫学的分析が不可欠です。住民の「安全」を確保するために、私たち地方衛生研究所の調査研究の役割は、ますます重くなっていると言わざるを得ません。

一方で、住民は「安心」を求めています。学術的見地から安全性を検証したり、法制度的に保証するだけでは、住民は食品・医薬品・環境・社会を信頼し安心してそれを享受できない時代状況となっています。このため、試験検査を通じて安全性を確認し、その結果を行政的に報告するだけでなく、また、検査結果の科学的背景や規格基準の根拠等の様々な情報も含めて、住民に対して積極的に情報を伝え信頼を得ることが必要です。

ただし、こうした「不安」に決しておもねらないことも重要です。「不安」の原因となる事象について単に試験検査を行い数値を示すだけでなく、その不安が人間の健康に対して真にハザード（危害）があるのか、どの程度の健康被害リスク（可能性）があるかを科学的に証明し、「安心」を「安全」と一致させる努力が必要です。住民が抱く不安について、その本質的な解消を図る事を調査研究の目的とすべきです。

そして、それらの情報を積極的に住民へ伝えて、かつ住民からの意見を求めていく努力も求められます。学会への発表や関係機関への情報提供だけでなく、広く社会に周知し意見を求め情報を共有する真のリスクコミュニケーションの達成なしには、「安全」と「安心」の確保は不可能です。

本研究報告が健康安全研究センターの都民とのリスクコミュニケーションの一助となれば幸いです。

2009年3月

東京都健康安全研究センター
所長 前田 秀雄